



Laerdal

helping save lives

UCHIDA



学校やコミュニティでの心肺蘇生学習に最適なソリューション

8-724-0008

ミニアン Plus スクールパック

ミニアン Plus スクールパックはキャリーバッグに10体のマネキンが収納されており、1人あたりの実習体験時間を多くすることで効率よく胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用方法などを学ぶことができます。また、インストラクションDVDを使用することで指導方法が統一でき生徒の学習に役立ちます。

耐久性に優れた再利用可能なマネキンは、使用する際、ポンプバッグを使って衛生的に膨らませることができます。ミニアン Plus スクールパックは学校やコミュニティでの心肺蘇生学習に大きく貢献します。



www.laerdal.com

ミニアン Plus スクールパック

特長

- ・ 耐久性のあるマネキン10体をキャリーバッグに収納
- ・ 300,000回以上の圧迫試験に合格
- ・ 付属のポンプで簡単に膨らませられ、衛生的
- ・ 保管・収納に便利なキャリーバッグ
- ・ JRCガイドライン2010に準拠したクリッカー機能
- ・ 初心者向けにソフトクリッカー設定も可能



※価格はすべて税抜です。

型番	商品名	価格
8-724-0008	ミニアン Plus スクールパック(10体セット) マネキン10体、腰用マット10枚、ポンプバッグ10個、キャリーバッグ1個、 指導用DVD 1枚、AEDイメージパッド10組、メッシュ収納バッグ2個、 フェイスミニアン Plus 10枚、マネキンワイブ50枚、交換用マネキン肺50個	¥92,000

消耗品

型番	商品名	価格
8-724-0021	エアウェイミニアン Plus (50枚パック) 	¥10,000
8-724-0022	フェイスミニアン Plus (5枚) 	¥6,000
8-724-0023	ミニアン Plus 1体(ポンプバッグ付) 	¥10,000
8-724-0024	ポンプバッグ(1個) 	¥3,000
8-724-0025	マネキンワイブ(50枚パック) 	¥1,980



いい「学校・教育・授業」づくりを支援いたします。

<http://school.uchida.co.jp/>

ご用命は信頼ある……

内田洋行

公共本部

東京 〒135-0016 東京都江東区東陽2-3-25

☎ 03(5634)6280

大阪 〒540-8520 大阪市中央区和泉町2-2-2

☎ 06(6920)2480

札幌 〒060-0031 札幌市中央区北1条東4丁目1-1

☎ 011(214)8630

福岡 〒810-0041 福岡市中央区大名2-9-27

☎ 092(735)6240

名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦2-2-2 名古屋丸紅ビル13F

☎ 052(222)7255

※当カタログ掲載内容(仕様、価格等)は諸般の事情により予告なく変更される場合があります。予めご了承ください。

大切な人のための7分間 未来を担う子どもたちが 心肺蘇生を学ぶ



町全体で心肺蘇生に取り組む

神奈川県中郡大磯町は、「歴史」「景観」「健康」「食文化」を町政の柱にかける町。特に「健康」づくりについては、これまでも、消防署の指導のもと心肺蘇生の授業を小学校児童や職員を対象に行うなど熱心な姿勢がみられる。この町で2013年12月、「ミニアンPlus」を用いた心肺蘇生の授業が行われた。

対象は、大磯町立国府中学校の2年生女子生徒たち。最初は、一人一体に割り当てられたマネキンを前に戸惑う様子も見られたが、ポンプバッグでマネキンを膨らませる作業を開始すると真剣な顔つきへ。

このポンプバッグは、従来の「ミニアン」にはなかったものであり、「ミニアンPlus」の特長の一つ。

「学校に設置して、継続的に使うことを考えると、手で膨らませるのは衛生的でいいですね」と大磯ロータリークラブ、百瀬恵美子会長も生徒たちの様子をみて語る。この授業は、同町のロータリークラブが学校側に「ミニアンPlus」を寄贈したことで始まった。「この授業を通して、『命の大切さ』を知ってもらうことが私たちの願いです。そのため町内の全中学校に80体のミニアンPlusを寄贈させてもらいました」未来を担う子どもたちへの期待は大きい。

「大切な人のための」の7分間

心肺蘇生の授業は「一番大切な人をお願い浮かべながらやりましょう」という講師の言葉で、いよいよ胸骨圧迫の実習からスタート。正しい深さを知らせるためのクリック音がなかなか鳴らずに、全員が奮闘する。夢中で押し続けるうちに、やがてあちらこちらからカチッカチツという音が響いてきた。

「あ、鳴ったー」「一回音が鳴ると感触がつかめる」と嬉しそうな生徒の声に、近隣の友人が「コツ教えて」とたずねる。自然に「教えあい」を行う光景が生まれていた。「音楽に合わせて押すんだよ」「ひじをまっすぐにね」とDVDで得た知識を自らの所作でクラスメートに教える生徒たち。このように柔軟に協力しあう姿勢が子どもたちの中にあるのは頼もしい。

一般に救急車がコールを受けて、現場へ到着するまでに、全国平均で約7分かるといわれている。家庭内で家族の誰かが、または街中で、たまたますれちがった人が突如、倒れてしまったというとき、現場に居合わせた人たちは協力しあいながら交代で、心肺蘇生を実施しなければならぬ。「自分の一番大切な人」を思い浮かべながら、行った今日の授業が生徒たちの今後の自信につながることをだろう。

「経験」は勇気になる！

『ミニアンPlus』のようなマネキンで練習しておけば、子どもたちも「もしも」のときに「心肺蘇生講習を受けたことがある」と勇気が出ると思います。大磯の一年間の救急車の出動回数は1496回。そのうちの104回が心肺蘇生されずに救急車の到着を待っていたそうです。家や屋外で誰かが倒れた場合、その場に居合わせた誰もが心肺蘇生ができるようになれば理想的ですね。子どもたちに命の大切さを知ってもらいたいです。



大磯ロータリークラブのみなさん



● 林 正人先生 (大磯町立国府中学校教頭)

学校内においても、突然の心停止というのは、決してないことではなく、武道の授業や部活動などで起こりうることです。心肺蘇生の授業はそのためにも必要なこと。「命」にかかわる体験を今後も大切にしていきたいです。



● 林 壽江先生 (学校教育課指導主事)

当校はPTAが熱心なので、生徒だけでなく、保護者の方にも体験してもらおうというのも良いかもしれないと思いました。



● 小島 昇先生 (教育委員会学校教育課副課長)

一人一体マネキンを使えるという環境はとても良いですね。技術的な問題だけではなく、人の命を助けるということの意味を学ぶことは命を考える機会にもなっていくんだろうと思います。

授業を終えて 生徒たちの声



VOICE 1

母が最近、介護の仕事を始めました。仕事場である施設に連れて行ってもらったりすることがあるんですが、そういうところにもAEDが置いてあったりします。使い方とかは知らなかったけれど、今日練習したので母に教えてあげることができそうです。

VOICE 2

胸骨圧迫はすごく力が要するのだと驚いています。いつも自分の心臓については、特別意識しないけれど、その動きが止まったときに、再び動かすためには、これだけの力で押さないとダメなのかと感じて、「すごいな」と思いました。

VOICE 3

胸骨圧迫は最初、正しいやり方がわからなくて、難しかったです。それでも一生懸命続けていくうち、コツがつかめてきたときは、嬉しかったです。

